

経皮的血管形成術(4日コース)を受ける患者様へ

【患者様用クリニカルパス】

ID: _____ 患者氏名: _____ 様

経過 日付	入院日(経皮的血管形成術前日) 月 日 ()	経皮的血管形成術当日(治療前)	経皮的血管形成術当日(治療後)	3日目(治療後1病日) 月 日 ()	4日目(退院日) 月 日 ()
目標	治療の内容が理解でき、検査を受けることができる。	予定通りに治療が終了することができる。		合併症出現なく経過できる。	退院指導の内容がわかる。
説明 指導 教育	<ul style="list-style-type: none"> 医師より治療の説明を行います。 看護師が入院生活および治療の説明を行います。 (説明後、承諾書を記入し、提出して下さい) (医師・看護師の説明でわからないこと、心配なことがあれば何でもお話し下さい) <ul style="list-style-type: none"> 御希望により、栄養指導・服薬指導が受けられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 治療中ご家族の方は東6B階病棟でお待ちください。 	<ul style="list-style-type: none"> 医師から治療結果について説明があります。 カテーテルを挿入した足は6時間は曲げないでください。6時間たてば寝返りや座ることができます。 患者様が落ち着かれましたら、ご家族の方は帰宅可能となります。 		<ul style="list-style-type: none"> 退院指導を行います。 医師から検査の経過と今後の内服などについて説明があります。 (治療直後に行うこともあります) 退院後の生活で、不安な点があれば遠慮なくお聞きください。
治療 処置	<ul style="list-style-type: none"> 身長・体重を測ります。 体温・脈拍・血圧を測ります。 足背の動脈と大腿の動脈の拍動を観察し印をつけます。 手首の動脈(正中・橈骨)の拍動を観察し印をつけます。 治療に必要な部位(橈骨または大腿)を必要時除毛します。 	足から治療する場合 手首・肘から治療する場合	<ul style="list-style-type: none"> 治療前に点滴を開始します。 治療の前に排尿し、検査着に着替えます。 治療前に肘や手首に麻酔のテープを貼ります。 治療前に点滴を開始します。 治療の前に排尿し、検査着に着替えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 点滴を継続します。 点滴を継続します。 手首からカテーテルを挿入した場合はバンドで固定します。 肘からカテーテルを挿入した場合は副え板をして包帯固定します。 	<ul style="list-style-type: none"> カテーテルを入れた部位の消毒を行います。 治療翌日に採血と四肢血圧脈波検査を行います。 症状がなければ留置針を抜去します。
検査	<ul style="list-style-type: none"> 採血・胸部X線撮影・心電図の検査を行います。 心臓超音波検査、四肢血圧脈波検査を行うこともあります。 生活に制限はありません。 				
生活 行動		<ul style="list-style-type: none"> ベッドで1階のカテーテル検査室へ向かいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 治療後はベッド上で安静にしてください。 治療後は、6時間たてばトイレまで歩くことができます。 		
清潔	<ul style="list-style-type: none"> 毛を剃った後、入浴またはシャワー浴ができます。 			<ul style="list-style-type: none"> 傷の状態に異常がなければ入浴できます。 	<ul style="list-style-type: none"> 傷の状態に異常がなければ入浴できます。
食事	<ul style="list-style-type: none"> 治療食となります。(カロリー・塩分制限) 水分に制限はありません。 		<ul style="list-style-type: none"> 午前治療は朝食が出ません。 午後治療は昼食が出ません。 		
内服薬	<ul style="list-style-type: none"> 今まで飲んでいた薬を変更することがあります。 				<ul style="list-style-type: none"> 退院時内服処方が必要に応じて出ることがあります。 
観察				<ul style="list-style-type: none"> カテーテルを入れた所の出血の有無を確認します。 止血用のバンドがきつすぎないか確認します。 帰室後1時間毎に3回、体温・脈拍・血圧・橈骨動脈の拍動の観察を行います。 治療終了後、造影剤を早く排泄するために、水分(お茶・水)を多めにとりましょう。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> 治療の状況により、両側の足の付け根の動脈からの治療になる可能性もあります。 				
備考					

注) 予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

岩手医科大学附属病院
循環器内科